

百日咳に注意！

どんな病気？

- 百日咳菌による感染症で、特有のけいれん性の激しい咳発作が特徴的な症状です。
- 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる、分泌物による飛沫感染や接触感染で広がります。
- 発症すると風邪症状がみられ、激しい咳が2週間、次にけいれん性の連続的な咳が2~3週間、回復までさらに2~3週間、完治までに約2~3か月かかります。
- 潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）は約7~10日で、感染可能期間（周囲に感染させる可能性がある期間）は発症から2~3週間（激しい咳の時期）です。
- 乳児の場合、無呼吸等重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。

どれくらい発生しているの？



年代別（2025年1~23週（1/1~6/8））1832件

年齢等	人数	%
0歳	48	2.6
1~6歳	118	6.4
7~12歳（小学生）	810	44.2
13~18歳（中・高生）	432	23.6
19~24歳（大学・専門学校等）	43	2.3
25~64歳	337	18.4
65歳以上	44	2.4

約74%

都内の報告数は、直近で過去4年よりも大きく上回っており、1~18歳が全体の約74%、0歳も50例近く報告されています。このような状況から保育園や学校等で特に注意が必要です。

百日咳にかからないためには？

- 予防にはワクチンが有効です。百日咳は定期予防接種が行われています。0歳2か月に達したら、早めにワクチンを接種しましょう。
- また、定期予防接種により免疫を得ていても、小学校就学前にワクチンの効果が薄まるため、日本小児科学会では任意での2回の追加接種（就学前1年間、11~12歳）を推奨しています。

百日咳かもしれないと思ったら？

- マスクを着用してください。
- 早めに医療機関を受診し診断を受けましょう。周囲に百日咳の方がいた場合は医師に伝えましょう。



百日咳と診断されたら？

- 周囲へ感染を広げないために、特に咳の激しい間は外出をひかえてください。
- マスクの着用と手洗いを徹底してください。
- 学校保健安全法で定められている出席停止期間は、「特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗生物質製剤による治療が終了するまで」です。